

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 6 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(A)（一般）

研究期間：2017～2021

課題番号：17H00907

研究課題名（和文）「超越性」と「生」との接続：近現代ロシア思想史の批判的再構築に向けて

研究課題名（英文）The Desire to Connect 'Transcendence' and 'Life': Towards a Critical Reconstruction of the History of Modern and Contemporary Russian Thought

研究代表者

貝澤 哉 (Kaizawa, Hajime)

早稲田大学・文学大学院・教授

研究者番号：30247267

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 25,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の成果として、18-20世紀のロシアにおける様々な思想的営みが、当時の世界的な言説のネットワークに積極的に参与し、超越的なものと人間、世界の関係性を独自に再規定しようと試みていたこと、またロシア国民思想史の独自性の背後には、じつは、西欧哲学思想や世俗的な法・権力関係と、宗教的な世界観との相互補完的な関係が常に潜んでいて、異質なものを積極的に「包括」する特性を孕んでいるおり、それは宗教や教育、法、美学、科学などの幅広い領域で、超越的、宗教的なものと、世俗的、経験的、科学的なものとを接続し、異質なものを対立ではなく包括的に捉えるようとする多様な試みとなって表れていることが明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、これまでロシアの特殊な国民思想史として独自のジャーゴンのなかに閉じられてきたロシア哲学思想史研究を、グローバルな思想的言説のコンテクストに広く置き直し、そのなかで、現代の私たちにとっての思想的意義を新たに捉え直し、ロシア思想史のパースペクティブ自体を新たに再構築する試みであり、この点に本研究の最も重要な学術的意義が存する。

さらにこうした再構築によって、単に思想史の再構成のみならず、現代の重要な理論的諸テーマである「身体」「記号」「表象」「他者」「実在」などについて、美学、文学理論、教育思想、法思想、科学思想等、ジャンル横断的な知見を得られた点でも、本研究の社会的意義は大きい。

研究成果の概要（英文）：As a result of our research, we came to the following conclusions: firstly, the diverse areas of Russian philosophy and thought of the 18th-20th centuries always widely took an active part in communication and dialogues with the various currents of Western philosophy and thought, and on these grounds tried to redefine the relationship between the metaphysical and human-experience, and secondly, behind what was called the national feature of Russian thought, there have always been hidden relationships between Western philosophical thought and religious worldview, and such relationships traditionally give Russian thought a strong all-encompassing character of mutually exclusive elements. In the history of Russian thought, it is precisely because of this character that the metaphysical, religious and secular, empirical, scientific are often connected, and in various fields various attempts are made to combine mutually exclusive elements.

研究分野：ロシア思想史

キーワード：ロシア思想 超越性 生 身体 宗教

1. 研究開始当初の背景

近現代ロシア思想史研究は、20世紀末のソ連解体後、宗教やナショナルな文化伝統を前景化した「ロシア的理念」についての画一的で内向きの言説に支配され、世界の哲学思想の幅広い歴史的コンテクストのなかで近現代ロシア思想の持つ意義や役割を冷静に理論的に取り出そうとする試みは、なかなか浮上してこなかった。

しかし文化研究の分野では、すでに20世紀末に「民族文化」や「国民文学史・芸術史」の「伝統」を、「想像の共同体」(B.アンダーソン)を仮構する「創られた伝統」(E.ホブズボーム)と見る観点が登場し、従来型の「国民文化史・芸術史・文学史」研究は全面的な再検討を迫られた。「ロシア思想史」もけっして例外ではなく、B.グロイスは論文「西欧の下意識としてのロシア」(1989)や「ロシアの国民的自己同一性の探求」(1992)において、近現代のロシア思想が、つねに西欧の陰画=下意識を演じることで、逆にナショナルなロシアの独自性と優位性を確保する装置として機能していたといち早く指摘した。また最近では乗松亨平の『ロシアあるいは対立の亡霊』(2015)が、1960年代末以降の現代ロシア思想においても、こうした他者との差異化による「ロシア的なもの」の自己同一性の温存が図られてきたことを論じている。

こうしたなか、近現代ロシア思想研究の新たな枠組みを再構築するためにはまず、「ロシア」というナショナリティの文化伝統に基づく狭い解釈の枠組みから近現代ロシア思想史を解放し、同時代や現代の世界の哲学思想の主要な問題圏に広く位置づけ直すことで、その理論的有効性や独自の役割を検証すること、さらに、古典的な意味での社会政治「思想」の狭い枠組みを超えて、芸術や文学、法や政治、神学や宗教、哲学や自然科学、心理学や社会学などの多様な分野を包括し、言語やメディア、イメージや表象、身体や知覚の様式、言説や制度の権力的布置に関する新しい方法論を取り入れながら柔軟かつ領域横断的に読み解いていくことが必要である。

本研究計画の代表者・研究分担者は、これまでロシア・プラトニズムの共同研究に取り組む中で、従来の思想史研究のあり方を上記の観点から再構築する必要性を痛感してきた。この共同研究のなかで明らかになったのは、近現代ロシア思想がつねに西欧近現代哲学思想の核心部分をなす最新の成果や問題意識を吸収し共有しつつ、独自の原理を追求していることであった。

なかでもとりわけ重要なのは、「超越的・イデア的なもの」と「具体的な生にかかわるフィジカルで感性的・経験的なもの」との関係性をどう捉えるのかという、プラトン以来西欧の哲学思想を揺さぶり続けてきた最も原理的な問いに、ロシアの思想家たちがそれぞれ独自に焦点をあて、ユニークな成果をもたらしていることである。18世紀~20世紀の哲学や美学、神学、言語論や文芸理論において、その現れ方は多様であるが、近現代ロシア思想に共通する重要な特質は、超越的でメタフィジカルなものを、あくまでそれとは対極的な身体、物質、言葉、つまり感性的・経験的な「生」との接点において見出そうとする強い志向性であった。この問題を中心軸とすれば、西欧の哲学思想にも共有される大きな問題圏のなかにロシア思想の系譜を正當に位置づけ、広いコンテクストのなかで歴史的に再構築することが可能となるはずである。

超越的なものと具体的な生との接点の問題は、近現代ロシア思想においてはつねに、プラトンと新プラトン主義の独自の読解から、経験的なものと超越的なものを峻別するカントおよび新カント派への批判を経て、シェリングやヘーゲル思想によるその総合、さらに20世紀には、感性的なものを重視するマッハやベルクソン、生の経験や存在者の身体感覚のなかにイデア的なものをとらえなおそうとしたフッサール、ディルタイ、ハイデガー、M.シェーラーらの現象学や解釈学、生の哲学と問題意識を共有し、論争的にそれらを摂取することで独自の思想を展開していった。

こうした探究の結果はたとえば、感性的・経験的な具体的存在でありながら理念的「意味」とも結びついたものとしての「言葉」や「記号」、「表象」の問題へのロシア思想のとりわけ強い関心となって現れ、たとえば20世紀初頭のロシア・フォルマリズム、パフチンなどによる、言葉の感性的受容や身体と知覚対象の現象学的考察にもとづいた文芸・芸術理論などに結実し、また「身体」と「神性」の合一を論じた19世紀後半の著名な思想家V.ソロヴィヨフによる神人論の影響を受けたアレクサンドル・コジェーヴは、フランスでラカンやバタイユ、メルロ＝ポンティらに多大な感化を与え、これらはいずれも、20世紀後半以後の記号論・構造主義やポスト構造主義、表象理論など、現代思想の基礎的な考え方の発信源として機能した。この意味で、近現代ロシア思想の探求は、「身体」や「記号」、「表象」、「イメージ」、「シミュラークル」などをめぐる今日のアクチュアルな思想状況にとってもその有効性を失っていない。

このように、「超越性」と「生」の接続という観点を中心に据えることで、近現代ロシア思想が今日にいたる世界の思想状況にどのようにコミットし影響をおよぼしてきたのかを、クリアに跡付け直すことが可能になるとともに、「身体」や「表象」、「メディア」など、思想、芸術、社会制度、宗教などの諸領域を横断し、現代の人文科学研究全体の今後の再構築にもかかわる重要な理論的問いにも大きな貢献を成し得るはずであると考えた。これが研究開始当初の背景である。

2. 研究の目的

本研究は、18 世紀～20 世紀初期の近現代ロシア思想史の全体像を、従来のロシア思想史研究にはない、「超越性」と「生」との接続という独自の視点からまったく新たに再構築することを目指す。近現代ロシア思想の大きな特質は、超越的でメタフィジカルなものを、あくまでそれとは対極的な身体、物質、言葉、つまり感性的・経験的な「生」との接点において見出そうとする強い志向にある。しかもこうした志向性は実は、西欧や日本の近現代思想とも共通の問題圏を形成しており、「身体」や「記号」、「表象」、「イメージ」、「シミュラクル」などをめぐる今日のアクチュアルな思想状況にとってもその有効性を失っていない。本研究ではこうした視点から、旧来の国民思想史研究の固定的枠組みを批判的に突き崩し、その再構築への第一歩を踏み出したい。

3. 研究の方法

近現代ロシア思想史（文学・芸術・哲学・思想・宗教・自然科学等）上影響力のある言説や表象について、研究代表者・研究分担者のあいだで各専門分野に応じて分担する。国内外で関連テクスト等の書誌学的調査・資料収集を行うとともに、それらの資料を本研究の狙いに沿って読解・検討し、相前後する時期および隣接ジャンルの相互関係および同時代のヨーロッパのテクストとの相互関係（間テクスト性）を検証する。その結果は年 2 回の研究会で発表、討論し研究者間で理解を共有する。また必要に応じて連携研究者からのレビューをうける。

本研究では、近現代ロシア思想史を新たな視点から位置付け直す作業を効率よく行うため、研究課題をいくつかの時代区分に分け、研究分担者間で分担したうえで、持ち寄った研究結果を相互に対照させながら、各研究成果の総合と互いの理解の深化をめざす。

4. 研究成果

本研究の成果として、18-20 世紀のロシアにおける様々な思想的営みが、当時の世界的な言説のネットワークに積極的に参与し、その国際的な哲学・思想的コンテキストやその最新の知見を独自に咀嚼しながら、狭義の哲学・思想的言説やメディアを超えた幅広い領域を横断する形で、超越的なものと、人間や彼が属する世界の関係性を独自の仕方でも再規定しようと試みていたことが裏付けられた。

さらにまた、これまでロシア国民思想史の独自性とされてきた「霊的共同性」や「全一性」の背後には、じつは、西欧哲学思想や世俗的な法・権力関係と、宗教的な世界観との相互補完的な関係が常に潜んでいて、異質なものを積極的に「包括」する特性を孕んでいるおり、それは宗教や教育、法、美学、科学などの幅広い領域で、超越的、宗教的なものと、世俗的、経験的、科学的なものとを接続し、異質なものを対立ではなく包括的に捉えるようとする多様な試みとなつて表れていることが明らかとなった。

たとえば、18 世紀の詩人デルジャーヴィンは、当時啓蒙主義期の西欧に広まっていた神の善性への疑いにたいして、その善性を擁護することで無神論を退け、超越的なものと人間の尊厳を両立させる思索を、頌詩などの文学作品をとおして展開した。また 19 世紀前半には、思想家チャアダーエフを通してプーシキンの文学へも受け継がれた西欧のカトリック的な普遍主義が、じつはその後の西欧派とスラヴ派の対立の陰で第三の思想的潮流として重要な役割を果たしており、その流れは、スラヴ派の「ソボルノスチ」理念との対比のなかで、19 世紀末の V・ソロヴィヨフらの教会合同の理念へと受け継がれていったことが明らかとなった。さらに、19 世紀後半のドストエフスキもまた、その作品のなかで、西欧のカトリックや国内の古儀式派など多様な宗派を排除するのではなく、それらを共存したまま包摂する理念の探求へとつながってゆく。さらに 19 世紀後半のユルケーヴィチの教育思想では、西欧的な科学的身体観と、宗教的・超越的な「神化」の思想との共振的な関係が模索されてゆく。

19 世紀末から 20 世紀初頭にかけての法思想の領域でも、西欧における新カント派による、自然法の超越性の再解釈を媒介としながら、現実の歴史の展開のなかに理念（目的）を接続しようとしたノヴゴロツェフのような法哲学者が現れた。20 世紀初頭の第一次ロシア革命期はじつは、国家の庇護下にあったロシア正教会がその特権を失う危機に見舞われ、ロシアの国民思想史においてつねに特権的な国民性と帝国性の源泉と見なされていたロシア正教会自体がみずから、ロシア帝国内に存在する多宗派の力学のなかである種の平等を求め、特権の放棄を模索した、歴史上きわめて注目すべき時期であることも明らかとなった。同時期の文学の領域では、象徴派の理論家イワーノフが、ニーチェやベルクソンの生の哲学のカオス・盲目性と、超越的でプラトニズム的な永遠性・調和との接続を試みている。ソヴィエト初期の思想家バフチンは、西欧の新カント派、解釈学、現象学の問題意識を共有し、我々の経験の条件となる人格的な他者との身体・知覚的な共存や対話性を先理論的な記述的方法で取り出そうと試みた。また科学史の領域では、1930 年代の量子力学の不確定性にかんする議論のなかで、ソヴィエトの科学者たちは唯物史観的な決定論と、不確定性や偶然性が両立しうるような理論の構築を真剣に模索していたのであり、それもまた、たんにソ連特有のイデオロギー的偏向の結果なのではなく、むしろそこに、ロシア思想史を一貫して流れる、超越的な理念・目的と経験的・偶然的なものとの接続の試みを見出すべきであるように思われる。

これらの研究成果は、最終年度に論集、貝澤哉、杉浦秀一、下里俊行編『超越性と生との接続 近現代ロシア思想史の批判的再構築に向けて』水声社、2022 年、として刊行された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計48件（うち査読付論文 14件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 (貝澤哉)	4. 巻 4
2. 論文標題 1870-	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 -1890-	6. 最初と最後の頁 61-72
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 貝澤哉	4. 巻 なし
2. 論文標題 帝政ロシア読書史のなかのドストエフスキー 「残酷な才能」から国民的作家へ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 井桁貞義、伊東一郎編『ドストエフスキーとの対話』水声社	6. 最初と最後の頁 225-260
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 貝澤哉	4. 巻 なし
2. 論文標題 ミハイル・バフチンの人格理論における「他者」概念と身体性の問題	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 貝澤 哉、杉浦秀一、下里俊行編『超越性 と 生 との接続 近現代ロシア思想史の批判的再構築に向けて』水声社	6. 最初と最後の頁 271-298
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 貝澤哉	4. 巻 36
2. 論文標題 プロバガンダ・動員文化の先駆形態としての「ソヴィエト文化」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 SLAVISTIKA	6. 最初と最後の頁 19-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15083/0002005324	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 北見論	4. 巻 なし
2. 論文標題 ディオニュソスと永遠回帰：ヴァチエスラフ・イワーノフの实在概念について	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 貝澤 哉、杉浦秀一、下里俊行編 『 超越性 と 生 との接続 近現代ロシア思想史の批判的再構築に向けて』水声社	6. 最初と最後の頁 235-270
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 兔内勇津流	4. 巻 なし
2. 論文標題 第一次ロシア革命とロシア正教会試論：なぜ宗務院体制打破と総主教制復興が提起されたか	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 貝澤 哉、杉浦秀一、下里俊行編 『 超越性 と 生 との接続 近現代ロシア思想史の批判的再構築に向けて』水声社	6. 最初と最後の頁 201-232
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 下里俊行	4. 巻 107
2. 論文標題 1860年代のロシアにおける進化論争：「身体」観の分析を中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ロシア史研究	6. 最初と最後の頁 3-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 下里俊行	4. 巻 なし
2. 論文標題 神化を目指す肉体：一八六〇年代の哲学者・教育学者ユルケーヴィチの思想	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 貝澤 哉、杉浦秀一、下里俊行編 『 超越性 と 生 との接続 近現代ロシア思想史の批判的再構築に向けて』水声社	6. 最初と最後の頁 115-168
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 坂庭淳史	4. 巻 なし
2. 論文標題 タルコフスキーとドストエフスキーの対話：『サクリファイズ』と『白痴』	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 井桁貞義、伊東一郎編著『ドストエフスキーとの対話』水声社	6. 最初と最後の頁 113-138
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 坂庭淳史	4. 巻 なし
2. 論文標題 プーシキンから見たチャアダーエフ 『エヴゲーニー・オネーギン』における感情の交錯	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 貝澤哉、杉浦秀一、下里俊行編『超越性と生との接続』水声社	6. 最初と最後の頁 55-80
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 坂庭淳史	4. 巻 28
2. 論文標題 「考える葦」をめぐる：チュツチェフとパスカル	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ロシア文化研究	6. 最初と最後の頁 19-39
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 杉浦秀一	4. 巻 なし
2. 論文標題 パーヴェル・ノヴゴロツェフと「自然法の復活」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 貝澤哉、杉浦秀一、下里俊行編『超越性と生との接続』水声社	6. 最初と最後の頁 169-200
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 望月哲男	4. 巻 なし
2. 論文標題 文字と絵 ドストエフスキーのカリグラフィーに関する若干のコメント	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 亀山郁夫、望月哲男、番場俊、甲斐清高編 『ドストエフスキー 表象とカタストロフィ』名古屋外国語大学出版会	6. 最初と最後の頁 38-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 望月哲男	4. 巻 なし
2. 論文標題 《赦し》の失敗 『白痴』から『カラマーゾフの兄弟』へ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 亀山郁夫、望月哲男、番場俊、甲斐清高編 『ドストエフスキー 表象とカタストロフィ』名古屋外国語大学出版会	6. 最初と最後の頁 250-254
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 望月哲男	4. 巻 12
2. 論文標題 アクーリカの周辺 『死の家の記録』の風景から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 295-310
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 望月哲男	4. 巻 なし
2. 論文標題 包摂と排除 『カラマーゾフの兄弟』における教会裁判と古儀式派のテーマ	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 貝澤哉、杉浦秀一、下里俊行編 『超越性 と 生 との接続』水声社	6. 最初と最後の頁 81-112
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鳥山祐介	4. 巻 35
2. 論文標題 『被造物を研究することはできない、故に、創造主は理解し難い』 ロモノソフの頌詩「神の偉大さについての夜の瞑想」とエンテュメーマによる作品主題の提示	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 SLAVISTIKA	6. 最初と最後の頁 297-309
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15083/00080021	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鳥山祐介	4. 巻 なし
2. 論文標題 詩的表象としてのズヴァンカーデルジャーヴィンの書簡詩《エヴゲニーに。ズヴァンカの生活》(1807)が描くウサーチバ	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 近代ロシア文学現出の舞台 ロシア文学史における貴族屋敷(ウサーチバ)の意義	6. 最初と最後の頁 61-76
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鳥山祐介	4. 巻 なし
2. 論文標題 デルジャーヴィンの頌詩「神」と啓蒙期のロシア：人間の尊厳と神の善性の擁護	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 貝澤哉、杉浦秀一、下里俊行編『超越性と生との接続』水声社	6. 最初と最後の頁 21-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 KANAYAMA Koji (金山浩司)	4. 巻 31(1)
2. 論文標題 A Japanese Physicist Meets with Socialist Natural Philosophy: SAKATA Shoichi (1911-1970) and Dialectical Materialism	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Historia Scientiarum	6. 最初と最後の頁 31-46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34336/historiascientiarum.31.1_31	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金山浩司	4. 巻 なし
2. 論文標題 量子力学に因果をみる：1930年代ソ連での議論	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 貝澤哉、杉浦秀一、下里俊行編『超越性と生との接続』水声社	6. 最初と最後の頁 299-321
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hajime Kaizawa（貝澤哉）	4. 巻 なし
2. 論文標題 'The Period of Stagnation' Fostered by Publishing: The Popularization, Nationalization and Internationalization of Russian Literature in the 1880s	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Yukiko Tatsumi, Taro Tsurumi, eds, Publishing in Tsarist Russia: A History of Print Media from Enlightenment to Revolution,	6. 最初と最後の頁 69-94
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Toriyama, Yusuke	4. 巻 なし
2. 論文標題 The Russian language as a Vehicle for the Enlightenment: Catherine II's Transformation Projects and the Society Striving for the Translation of Foreign Books	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Yukiko Tatsumi and Taro Tsurumi, eds., Publishing in Tsarist Russia: History of Print Media from Enlightenment to Revolution (London: Bloomsbury Publishing PLC, 2020)	6. 最初と最後の頁 15-36
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鳥山祐介	4. 巻 35
2. 論文標題 『被造物を研究することはできない、故に、創造主は理解し難い』 ロモノソフの頌詩「神の偉大さについての夜の瞑想	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 SLAVISTIKA	6. 最初と最後の頁 297-309
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15083/00080021	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 兔内勇津流	4. 巻 105
2. 論文標題 ヴァシーリー・ボルディレフと日本: 1919年滞日期を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ロシア史研究	6. 最初と最後の頁 3-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 坂庭淳史	4. 巻 28
2. 論文標題 「考える章」をめぐる: チュツチェフとパスカル	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ロシア文化研究	6. 最初と最後の頁 19-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 貝澤哉	4. 巻 なし
2. 論文標題 人文科学方法論の基礎と現代的課題 G. シペート、M. パフチンの理論的探究より	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『新しい人文学への展望 過去・現在・未来』私立大学戦略的基盤形成支援事業「近代日本の人文学と東アジア文化圏 東アジアの人文学の危機と再生」早稲田大学総合人文科学研究センター、2019年03月	6. 最初と最後の頁 10-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kaizawa, Hajime	4. 巻 なし
2. 論文標題 'The Period of Stagnation' Fostered by Publishing: The Popularization, Nationalization and Internationalization of Russian Literature in the 1880s	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Yukiko Tatsumi, Taro Tsurumi, eds, Publishing in Tsarist Russia: A History of Print Media from Enlightenment to Revolution, London, New York, Oxford, New Delhi, Sydney: Bloomsbury Academic, 2020	6. 最初と最後の頁 69-94
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 北見論	4. 巻 66
2. 論文標題 生成する世界とメシア的な主体：ベルジャーエフの世界戦争論をめぐって	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『スラヴ研究』66号、北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター、2019年9月10日	6. 最初と最後の頁 55-90
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 北見論	4. 巻 71
2. 論文標題 ベルジャーエフの第一次世界大戦期の思想における構造と主体 (前編)：生成する生と静態化するイデオロギー	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『神戸外大論叢』第71巻 第2号、神戸市外国語大学研究会、2019年11月	6. 最初と最後の頁 89-124
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 北見論	4. 巻 71
2. 論文標題 ベルジャーエフの第一次世界大戦期の思想における構造と主体 (後編)：循環する生と超越的な主体	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『神戸外大論叢』第71巻 第2号、神戸市外国語大学研究会、2019年11月	6. 最初と最後の頁 125-154
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Toriyama, Yusuke	4. 巻 なし
2. 論文標題 The Russian language as a Vehicle for the Enlightenment: Catherine II's Transformation Projects and the Society Striving for the Translation of Foreign Books	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Yukiko Tatsumi and Taro Tsurumi, eds., Publishing in Tsarist Russia: History of Print Media from Enlightenment to Revolution (London: Bloomsbury Publishing PLC, 2020)	6. 最初と最後の頁 15-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 貝澤哉	4. 巻 1
2. 論文標題 人文科学方法論の基礎と現代的課題 G. シベート、M. パフチンの理論的探究より	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『新しい人文学への展望 過去・現在・未来』私立大学戦略的基盤形成支援事業「近代日本の人文学と東アジア文化圏 東アジアの人文学の危機と再生」、早稲田大学総合人文科学研究センター	6. 最初と最後の頁 10-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 貝澤哉	4. 巻 9
2. 論文標題 現象学から笑いと小説の理論へ	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ゲンロン9 第一期終刊号	6. 最初と最後の頁 160-166
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 望月哲男	4. 巻 1
2. 論文標題 ロシア文学の中古儀式派 (19世紀を中心に)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 坂本秀昭・中澤敦夫(編著)『ロシア正教古儀式派の歴史と文化』明石書店	6. 最初と最後の頁 364-388
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 望月哲男	4. 巻 1
2. 論文標題 第1章 聖山は遠くにありて：19世紀の修道士パルフェーニーのアトス	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 杉本義男・松尾瑞穂編『聖地のポリティクス：ユーラシア地域大国の比較から』風響社	6. 最初と最後の頁 25-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 杉浦秀一	4. 巻 1
2. 論文標題 ルワンダ経済交流・協力事業の留意点：アフリカ開発研究から学ぶこと	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『ルワンダと北海道：国際地域連携研究』、北海道大学メディア・コミュニケーション研究院	6. 最初と最後の頁 85-101
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 A.Sakaniwa（坂庭淳史）	4. 巻 1
2. 論文標題 Chaadaev and Tyutchev: History, System and Chaos	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Peter Chaadaev: Between the Love of Fatherland and the Love of Truth, eds. by Artur Mrowczynski-Van Allen, Teresa Obolevitch, and Pawel Rojek, Eugene, OR: Pickwick Publications.	6. 最初と最後の頁 127-136
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 （鳥山祐介）	4. 巻 1
2. 論文標題 :	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 /Nikolai Karamzin crivain:	6. 最初と最後の頁 131-145
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 貝澤哉	4. 巻 なし
2. 論文標題 人文科学方法論の基礎的問題と現代的課題へのアプローチ：G.シベート、M.バフチンの理論的探究を手がかりとして	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 第9回東アジア人文学フォーラム「東アジアにおける人文学の復興」	6. 最初と最後の頁 15-32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 望月哲男	4. 巻 10
2. 論文標題 「『戦争と平和』：将校の帰郷、あるいは休暇に獵をすること」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 文学界	6. 最初と最後の頁 41-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 . (下里俊行)	4. 巻 29
2. 論文標題 . .	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 :	6. 最初と最後の頁 56-64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 . (下里俊行)	4. 巻 1
2. 論文標題 .	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 .	6. 最初と最後の頁 30-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 . (下里俊行)	4. 巻 1
2. 論文標題 .	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 :	6. 最初と最後の頁 200-205
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 北見論	4. 巻 64
2. 論文標題 セルゲイ・ブルガーコフの経済哲学におけるマルクス主義とソフィア論	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 スラヴ研究	6. 最初と最後の頁 75-107
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 兔内勇津流	4. 巻 99
2. 論文標題 第二次世界大戦期サハリン周辺海域の航行問題	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 ロシア史研究	6. 最初と最後の頁 3-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金山浩司	4. 巻 45 (19)
2. 論文標題 拡張主義的科学観を涵養したソヴィエト連邦	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 96-107
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金山浩司	4. 巻 なし
2. 論文標題 「政治化」と学知 物理学哲学論争	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 浅岡善治ほか(編)『人間と文化の革新 ロシア革命とソ連の世紀4』岩波書店	6. 最初と最後の頁 153-176
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計22件（うち招待講演 8件 / うち国際学会 6件）

1. 発表者名 貝澤哉
2. 発表標題 1870-90年代におけるロシア文学古典の「国民化」（パネル：E.ドブレニコの研究から見るロシア・ソ連文化構築プロセス 講演者：E.ドブレニコ、平松潤奈、中村唯史、貝澤哉）（使用言語：ロシア語）
3. 学会等名 日本ロシア文学会第69回大会（於早稲田大学）（東京、早稲田大学国際会議場） 日本ロシア文学会、2019年10月
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 坂庭淳史
2. 発表標題 ：)
3. 学会等名 国際学会「ウラジーミル・ソロヴィヨフ：愛の形而上学」クラクフ・ヨハネパウロ2世大学、2019年6月4日（ロシア語での発表）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 鳥山祐介
2. 発表標題 ： II
3. 学会等名 シンポジウム「ロシアの近代化過程を考察する」ニコライ・ペトルヒンツェフ教授を招聘して（於：明治大学）、2019年6月22日
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 鳥山祐介
2. 発表標題 XVIII - XIX
3. 学会等名 スラブ・ユーラシア研究センター2019 冬期国際シンポジウム「帝政ロシアの地方再訪：文学的想像力と地政学」（北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 坂庭淳史
2. 発表標題 タルコフスキー映画におけるドストエフスキーとの信仰と生に関する対話
3. 学会等名 「ドストエフスキイの会」第247回例会、2018年09月15 日（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 兔内勇津流
2. 発表標題 IOM所蔵出版物に見る明治期日本の正教会
3. 学会等名 日露国際研究集会「コレクション形成からみる日露関係史II」, 北海道大学（札幌市）、2018年6月3日
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 兔内勇津流
2. 発表標題 ロシア・ソ連の史料・文献に見るソ連の南サハリン統治（1945-1950）
3. 学会等名 日本植民地研究会第26回全国研究大会「共通論題：日本帝国の崩壊とソ連による占領」, 北海学園大学(札幌市), 2018年7月15日
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 兔内勇津流
2. 発表標題 ヴァシーリー・ボルディレフと日本軍
3. 学会等名 ロシア史研究会第62回大会パネル「新史料から見直すシベリア出兵」, 首都大学東京(八王子市), 2018年10月14日
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 兔内勇津流
2. 発表標題 19世紀ロシア正教会の対外関係とモスクワ府主教フィラレート：東方正教会との関係を中心に
3. 学会等名 研究会・「プラトンとロシア」研究会， 早稲田大学（東京都新宿区）， 2019年3月28日
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 貝澤哉
2. 発表標題 人文科学方法論の基礎的問題と現代的課題へのアプローチ：G.シペート、M.パフチンの理論的探究を手がかりとして
3. 学会等名 第9回東アジア人文学フォーラム「東アジアにおける人文学の復興」（早稲田大学総合人文科学研究センター） 2017年12月16日（招待講演） （国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 貝澤哉、乗松亨平、東浩紀
2. 発表標題 パフチンからポストモダンへ：『ゲンロン6 ロシア現代思想』刊行記念トークショー
3. 学会等名 ゲンロン（ゲンロンカフェ）2017年9月30日（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 貝澤哉
2. 発表標題 ナボコフ初期小説の楽しい読み方 『カメラ・オブスクーラ』、『絶望』、『偉業』を翻訳して
3. 学会等名 公開シンポジウム ロシアの文化 その魅力と鑑賞法（日本ロシア文学会）2017年07月08日（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 望月哲男
2. 発表標題 『白痴』と『アンナ・カレニナ』
3. 学会等名 公開シンポジウム ロシアの文化 その魅力と鑑賞法(日本ロシア文学会)2017年07月08日(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 望月哲男
2. 発表標題 『白痴』:時間論の背景
3. 学会等名 科研費研究発表会「カタストロフィの想像力」2017年7月15日、東京大学本郷
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 望月哲男
2. 発表標題 ロシア文化研究の国際化? ロシア文学会の経験と試みから
3. 学会等名 ロシア・東欧学会/JSSEES合同学会、2017年10月22日(一橋大学)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 (兎内勇津流)
2. 発表標題 1920 .
3. 学会等名 " 2017年10月25日 極東連邦大学 ウラジオ ストク(ロシア)(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 兔内勇津流
2. 発表標題 アレクサンドル・ポポフ(1820~1877)のカトリック論
3. 学会等名 科研費研究「「超越性」と「生」との接続：近現代ロシア思想史の批判的再構築に向けて」研究会、2018年3月16日、早稲田大学
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 北見諭
2. 発表標題 例外状態における世界創造とメシアニズム：第一次世界大戦期におけるベルジャーエフの思想
3. 学会等名 科研費研究「「超越性」と「生」との接続：近現代ロシア思想史の批判的再構築に向けて」研究会、2017年9月14日、早稲田大学
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 北見諭
2. 発表標題 二つの存在論と二つの世界戦争論：第一次世界大戦期におけるロシアの宗教哲学
3. 学会等名 北海道学スラヴ・ユーラシア研究センター 客員研究員セミナー 2018年3月6日、北海道大学スラヴ・ユーラシア研究センター
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 . (下里俊行)
2. 発表標題 . :
3. 学会等名 " ", 2017年9月28日ペテルブルク大学(招待講演)(国際学会) : 150-
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 (下里俊行)
2. 発表標題
3. 学会等名 ", 2017年9月28日, サンクトペテルブルク工科大学 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 金山浩司
2. 発表標題 梶雅範のヴェルナツキー研究：邦訳『ノースフェーラ：惑星現象としての科学的思考』刊行に寄せて
3. 学会等名 日本科学史学会 2017年6月4日 香川大学
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 沼野充義、望月哲男、池田嘉郎	4. 発行年 2019年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 886
3. 書名 ロシア文化事典	

1. 著者名 金山浩司	4. 発行年 2018年
2. 出版社 東海大学出版部	5. 総ページ数 348
3. 書名 神なき国の科学思想：ソヴィエト連邦における物理学哲学論争	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	北見 諭 (Kitami Satoshi) (00298118)	神戸市外国語大学・外国語学部・教授 (24501)	
研究分担者	鳥山 祐介 (Toriyama Yusuke) (40466694)	東京大学・大学院総合文化研究科・准教授 (12601)	
研究分担者	杉浦 秀一 (Sugiura Shuichi) (50196713)	北海道大学・メディア・コミュニケーション研究院・名誉教授 (10101)	
研究分担者	兎内 勇津流 (Tonai Yuzuru) (50271672)	北海道大学・スラブ・ユーラシア研究センター・准教授 (10101)	
研究分担者	下里 俊行 (Shimosato Toshiyuki) (80262393)	上越教育大学・大学院学校教育研究科・教授 (13103)	
研究分担者	坂庭 淳史 (Sakaniwa Atsushi) (80329044)	早稲田大学・文学学術院・教授 (32689)	
研究分担者	望月 哲男 (Mochizuki Tatsuo) (90166330)	中央学院大学・現代教養学部・教授 (32505)	
研究分担者	金山 浩司 (Kanayama Koji) (90713181)	九州大学・基幹教育院・准教授 (17102)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	根村 亮 (Nemura Ryo) (40242367)	新潟工科大学・工学部・教授 (33108)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関